



小野 蓮明名誉教授を偲んで

2019年11月27日、小野蓮明先生がご逝去された。定年退職後、大病を患ってからはご自宅で静養されておられたが、ご家族の献身的なサポートのもと、お元気であるとお伺いしていたので、突然の悲報に驚いた。

先生は、大谷大学文学部をご卒業後、大学院では宗教学を専攻し、西谷啓治先生のご指導のもと宗教哲学を学ばれた。その後、真宗学科に戻られて、助教授時代には『願と信－親鸞の主体性論－』(1982年)を上梓された。先生の関心は、宗教的なる人間の究明にあり、それを親鸞思想から解明することにあつた。一貫してこの課題に取り組み、1998年にこれまでの研究成果を博士論文にまとめられ、『本願の行信道－親鸞の信仰主体性論－』(2000年)として出版された。

私が先生と初めてお会いしたのは、大学院入試の時であつた。面接の時に私の研究課題を熱心に聞いて下さるお姿が心に残り、入学後は先生のゼミでのご指導をお願いした。先生は親鸞思想に真摯に向き合いながら、いつも私たちに情熱を持ってその思想の積極性をお話し下さつた。

先生とご縁をお持ちの方なら誰もがご存じであろうが、先生は妙なる声をされていた。大学での講義も、講演会などでのお話しも、中低音のよく響く声に誰もが魅了されたことであろう。その声色は、先生の励ましのお言葉とともに、今でもしっかりと耳に残っている。

先生の優しい人柄と、研究に対する厳しい眼差しに多くの人がお育ていただいたことと思う。ここに謹んで先生からいただいた学恩に謝意を表したい。

大谷大学准教授 山田 恵文